

表紙

①『ナレッジ・マネジメント研究』投稿原稿執筆テンプレート(Template of writing a paper/research note/case study for Journal of Japanese Knowledge Management—)

②日本 太郎(Taroh NIHON) ABC 株式会社 (ABC Corporation)  
大和 花子(Hanako YAMATO) XYZ 大学 (XYZ University)

③ 〒123-0045 東京都 B 区 C1-2-3  
電話 : (03) 1234-5678  
E メールアドレス : taro-nihon@u.abc.ac.jp

④ キーワード: 知識創造, SECI, 知識伝承, コミュニティ・オブ・プラクティス,  
イノベーション

## Abstract

This template file is recommended to be used for your paper, research note of case study description to be submitted to “Journal of Japanese Knowledge Management”, the academic issue of Knowledge Management Society of Japan.

This template consists of two parts: Submission Regulations and Writing Guidelines. Submission Regulations explains general information necessary to submit your paper or others to the association, and Writing Guidelines specifies and defines how to write your paper using MS Word in detail.

The title, authors' names and organizations should be described both in Japanese and in English. The abstract is written only in English, while the main part is in Japanese.

However, for those whose native language is not Japanese, whole paper can be written in English, but not in any other languages. All the English sentences and words including the abstract by non-native English-speaking authors must be verified by a native English-language level person who understands the terminology of the specialized field

Number of words in this abstract section should be around 300.

キーワード： 知識創造, SECI, 知識伝承, コミュニティー・オブ・プラクティス,  
イノベーション

## 『ナレッジ・マネジメント研究—』 投稿原稿執筆テンプレート

### 1. 『ナレッジ・マネジメント研究』 投稿規程

#### 1-1. 概要

本学会誌である『ナレッジ・マネジメント研究 (Journal of Japanese Knowledge Management)』は、日本ナレッジ・マネジメント学会の機関誌であり、年1回発行される。本学会の個人会員または法人会員は、投稿資格を有する。但し、共著の場合は、第一執筆者が本学会の個人会員または法人会員であれば、第二執筆者以降は会員以外でもよい。原稿は編集委員会が依頼する匿名レフェリー2名による審査を受け、記述の修正が求められる場合もある。尚、レフェリー2名の意見が分かれて投稿者が対応できないと認められた場合は、編集委員長あるいは編集委員長が委託する第3査読者が修正内容について最終決定をする。

また、原稿は初出のものでかつ他の出版物・掲載物・Webサイト等への投稿予定のないものに限り、審査過程にある投稿された論文等は、同時に他機関の各種出版物への投稿および Web 等による公表をしてはならない。

#### 1-2. 投稿ジャンル

投稿できるジャンルは、以下の3種類とする。

① 論文(Article)： ナレッジ・マネジメントに関する、学術研究に相応しいオリジナルな著述で、問題提起・方法論・分析結果とその理論的考察・明確な結論を備えたもの。理論的、実証的、または方法論的に、本学会の学術研究の発展に貢献しうるもの。

② 研究ノート(Research Note)： 先行研究を多数引用し、それらの成果や問題点について解説したもの。または、独自の調査やオリジナルな個別事例についての結果・報告で、ナレッジ・マネジメントの研究を進めていく上で資料的価値を認められるもの。

③ ケーススタディ(Case Study)： ナレッジ・マネジメントに関する企業や団体組織の事例研究であり、①テーマ関連の研究文献を踏まえて新たに具体的事例の課題を設定しており、②研究の調査方法等が適切であり、③問題の所在・原因の究明が見られる、構成になっているもの。必ずしも学術研究に相当することは問わない。

投稿時には、上記①論文、②研究ノート、③ケーススタディのいずれのジャンルで応募したのかを明記する。但し、編集委員会の判断により投稿者にジャンルの変更を求める場合がある。

#### 1-3. 提出原稿

原稿は、本学会誌の執筆要項に基づき、PC ワードプロ（MS Word 等）で作成し、編集可能な電子ファイルにて提出しなければならない。

#### 1-4. 著作権

本学会誌に掲載された論文、研究ノート、ケーススタディ等の著作権は本学会に帰属するものとする。但し、執筆者が転載を希望する場合には編集委員長の事前了承を得ることにより、原則認めるものとする。

#### 1-5. 採用原稿への校正

採用原稿の執筆者校正は初校のみとし、校正時の原稿改訂は原則として認めない。また、投稿原稿、メディアなどは一切返却しない。

#### 1-6. 原稿投稿締切日

原稿提出締切日は年 1 回、11 月 30 日とする。但し事情により変更する場合がある。

#### 1-7. 原稿送付先

原稿の送付先は下表にあるように、日本ナレッジ・マネジメント学会『学会誌』編集委員会とする。

表 1 原稿送付先

〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町 518 司ビル 3F 国際ビジネス研究センター内 日本ナレッジ・マネジメント学会事務局『学会誌』編集委員会 Tel : 03-5273-0473 e-mail: kmsj@ibi-japan.co.jp 投稿送付時の CC および問合せ先 : 『ナレッジ・マネジメント研究』編集委員長 筒井万理子 mtutui@bus.kindai.ac.jp
--

出所 : 『日本ナレッジ・マネジメント研究』執筆要項

## 2. 『ナレッジ・マネジメント研究』執筆要項

### 2-1. 基本要件

原稿(論文・研究ノート・ケーススタディのいずれか)は日本語または英語とする。原稿はPC ワードプロソフトのワードで作成すること。書式は A4 版横書きとし、フォントサイズは 11 ポイントとする (注・参考文献等は 9 ポイント)。表紙を除く原稿の全ページについて、ページ番号を連続して打つ。日本語原稿の場合、ページ設定は 40 字×32 行とする。

### 2-2. 原稿の構成

原稿は、表紙、英文 Abstract、本文 (図表含)、謝辞、注、参考文献の順で構成する。但し、謝辞と注は必須ではない。

#### 2-2-1. 表紙ページ

表紙ページには以下の①~④内容を記載する。

- ① 表題 (日本語原稿の場合は、日本語と英語の両方)
- ② 執筆者の氏名、所属 (日本語と英語の両方)
- ③ 連絡先電話番号、e メールアドレス
- ④ キーワード(5 つ)

#### 2-2-2. 英語文 Abstract

日本語文および英語文原稿では、表紙ページの次の 2 ページ目に英語文 Abstract (300words 程度内) を作成する。なお、英語文については、事前にネイティブチェックを受けておくこととする。

Abstract は、段落の初めを半角 2 文字分インデントし 3 文字目から開始する。また、投稿文記載後に Abstract 以降全体を両端揃え操作により整える。

#### 2-2-3. 本文

本文は 3 ページ目から執筆し、冒頭には表題を書く。この 3 ページ目以降には、執筆者の名前や所属等は書いてはならない。英文 Abstract、本文、図表、注、参考文献、謝辞を含めた原稿の分量は原則として日本語原稿で 16,500 字以内 (1 ペ

ージ=40 字×32 行で、当学会誌刷り上がり 10 ページ以上 14 ページ以内)、英文原稿で 6,500 語以内 (ダブルスペース、全てを含み学会誌刷り上がり 10 ページ以上 14 ページ以内) とする。(学会誌刷り上がり 1 ページは日本語原稿で 1,200 字以内を換算の目安とする。)

図表は下表の要領で原稿字数に換算する。

表 2 図表の換算原稿字数

刷り上がり 2 分の 1 ページ大の図表	16 行×40 字=640 字
刷り上がり 3 分の 1 ページ大の図表	11 行×40 字=440 字

注：いずれもタイトル 1 行と注記 1 行を含む。

出所：『日本ナレッジ・マネジメント研究』執筆要項。

なお、編集委員会が掲載原稿のレイアウトに問題があると認めた場合には、そのページ数を調整することがある。また、掲載原稿が 14 ページを超える場合には、編集委員会からの修正意見書に基づく修正原稿の再提出が投稿者からない限り、掲載されないこととする。

### 2-3. フォント

フォントタイプとフォントサイズおよび送り行、インデントについては以下の指定とする。:

- ・ 英文 Abstract は、文字フォントを Times New Roman とし、フォントサイズは 11 ポイントとする。尚、インデントは 3 文字分とする。

- ・ 表題 は MS 明朝、フォントサイズ 16 ポイントとし、横方向中央配置とする

- ・ 次にフォントサイズ 14 ポイントの空行を設け、全角ブランク 1 文字に続けて「1. はじめに」などの 章名 を記す。この次の行もフォントサイズ 14 の空行とする。

- ・ 節、項 においては、MS ゴシックのフォントタイプを使用し、上部をフォントサイズ 11 ポイントの空行とし、全角ブランク 1 文字に続けて節番号と全角ブランクの次に節名を「**2-1 知識**」のように記す。項においても同様に、ブランク「**3-1-2 暗黙知**」のように記載する。節、項ともに下段行は空行を設けず後続させる。

- ・ 本論 は段落の初めに全角ブランクを置き、MS 明朝のフォントサイズ 11 ポイントにて記載する。

・謝辞があれば、本論最終行の後に 2 行空けてから記載する。1 ブランク後、謝辞と MS ゴシックで表した後、次行より MS 明朝の 9 ポイントにて、新段落初めのみインデント全角 1 ブランクを伴い記述する。

・注記は、謝辞または謝辞が無ければ本論最終行の次に 2 行空けてから記載する。フォントサイズ 9 ポイントにて 1 ブランク後、【注】と MS ゴシックで表した後、次行より MS 明朝 9 ポイントにて、半角にて 1) に続いて全角ブランクを空けて記述する。英字は Times New Roman 9 ポイントとする。スタイルについては、本執筆要項の第 2-7 と第 2-8 を参照されたい。

・参考文献は、注記の後に 2 行空けてから記載する。「参考文献」は行中央配置に MS ゴシック 9 ポイントにて表示する。和文字は MS 明朝のフォントとし、英文字は Times New Roman、フォントサイズは 9 ポイントとする。スタイルについては、第 2-8 を参照されたい。

#### 2-4. 数字・シンボル・句読点

英字および 2 桁以上の数字は原則として半角で打つ。数式、数値の記述は通常のシンボルを利用し、特別なシンボルは利用しない。なお、数式等については、一般の専門誌で適用される通常の約束事をこの原稿にも適用する。日本語原稿については、読点は「、」、句点は「。」を全角で打つ。但し、本文中の（ ）内と日本語参考文献については「，」と「。」を使用する。

#### 2-5. 表と図表タイトル

図表は「図」（英語では“Figure”）と「表」（同“Table”）とに分け、それぞれ通し番号と太字標題を付け、本文中に原則として左右中央配置を挿入する。図表タイトルの挿入場所は図においても表においてもその上部に中央配置とする。尚、表の中に使用する文字に限り、フォントサイズは 9 ポイント以上とする。図表等には、出所を明記しフォントサイズ 9 にて図表直下に図表幅の左端揃えの配置にて、「出所： x x x x」あるいは、筆者オリジナルであれば「出所：筆者」などとする。

また必要な場合注釈を付ける。

<例：日本語> 図 1 日本企業の知的財産権組織    <例：英語> Figure 2 R&D Productivity

<例：日本語> 表 3 川崎重工業の事業部門    <例：英語> Table 5 U.S. Oil Price

## 2-6. 謝辞

コメント、助言、研究資金等への謝辞、または報告全体に係わる注で後注とするには適当でないものは、本文の後、注の前に謝辞として、アスタリスク(\*)をつけて配置する。

<例>

### \*謝辞

本研究にご協力頂いた ABC 社と XYZ 大学の関係各位に感謝の意を表します。また、適切な修正コメントを頂いた査読者各位にも著者一同より感謝の意を表します。

## 2-7. 注

本文に関する注は本文の後に配置する後注の形式をとり、下記のスタイルをとる。注番号は算用数字で連続して付ける。

<例>本論末尾の 2 空行後

### 【注】

- 1) 本章の記述のうち、最近のアメリカにおける制度の変更について、尾崎英男氏の示唆を受けた。
- 2) 詳細の解説については、たとえば尾崎英男（1991）『日本企業のための米国特許紛争対応ガイドブック』日本機械輸出組合を参照。
- 3) ヘンリー幸田(1992)『日米特許紛争スーパーマニュアル』発明協会、63 ページ。
- 4) 尾崎英男、前掲書、85-86 ページ

## 2-8. 参考文献

参考文献は正確に記載し、例示するようなスタイルとする。日本語文献と外国語文献は分けずに ABC 順とし、英語以外の外国語文献も英語文献に準じて記載する。外国語の書籍や雑誌名については斜体とする。尚、1つの参照文献が 2 行以上にわたる場合は、2 行目以降の記載は和英文字の両者共半角 3 ブランクを空ける。

<例>

### 参考文献

- Bacharach, S. B. and M. Aiken (1976) "Structural and Process Constraints on Influence in Organizations: A Level Specific Analysis," *Administrative Science Quarterly*, December, Vol.21, No.4, pp.623-642.
- Holton III, E. F. and Baldwin, T. T. Edit. (2003) *Improving Learning Transfer in Organizations*, NJ: John Wiley & Sons, Inc.
- 児玉文男(1990)「知的所有権部の戦略 4 新日本製鐵株式会社 知的財産部」『発明』第 87 巻第 5 号, 発明協会, 44-76 ページ。
- Nonaka, I. and H. Takeuchi (1995) *The Knowledge Creating Company*, New York: Oxford University Press. (野中郁次郎・竹内弘高, 梅本勝博訳 (1996)『知識創造企業』東洋経済新報社)
- Posner Barry (1987) "What Takes to be a Good Project Manager," *Project Management Journal*, March, Vol.34, No.1, pp.123-145.
- Thamhain, H. J. and D. L. Wilemon (1986) "Criteria for Controlling Projects According to Plan," *Project Management Journal*, June. Vol.53, No.2, pp.75-96.

Ueki, H. et al. (2011) “A Comparative Study of Enablers of Knowledge Creation in Japan and U.S.-based Firms,”  
*Journal of Asian Business Management*, 10(1), pp.113-132.

植木英雄・植木真理子・齋藤雄志・宮下清（2011）『知を創造する経営―日米主要企業の実態の解明―』  
文真堂。